



[vol.001]

Ninja



モーターサイクルの常識を覆し続けてきた、“挑戦”の系譜 生誕30周年、脈々と受け継がれる「Ninja」の遺伝子



初代
モデル

1984
Ninja/GPz900R

衝撃的なデビューを飾った、Ninja(米国名)/GPz900R。当時最先端の水冷並列4気筒DOHC4バルブ908ccエンジンを、軽量コンパクトな車体に搭載。その強烈なパワーと扱いやすいハンドリングで、世界のバイク・オブ・ザ・イヤーを席巻した。

1 970年代から80年代にかけ、世界のオートバイは高出力・大排気量化で熾烈な競争を繰り広げていた。そこに歴史を決定づける1台が登場する。1984年の「Ninja(米国名)/GPz900R」だ。カワサキの傑作、水冷並列4気筒DOHC4バルブ908ccエンジンを軽量コンパクトな車体に搭載、サイドカムチェーンやダイヤモンドフレームなど当時の技術の粋を惜しみなく注ぎ込んだ初代Ninjaは、その優れた空力特性を誇る独特のスタイリングと相まって、当時のモーターサイクルの常識を一新、世界中で瞬間に大ヒットモデルとなった。Ninja/GPz900Rは、その後20年ほど生産が継続されるロングセラーモデルとなり、今なお世界中多くのファンから高い人気を誇っている。

カワサキのフラッグシップブランドとなったNinjaのネームは、その後脈々と続くさまざまなモデルへ受け継がれてゆくこととなる。サーキットで、ハイウェイで、ストリートやワインディングで、カワサキが理想とするモーターサイクルは、誰もが安全に最高のライディングを愉しめるということ。そのために、いつの時代もNinjaがめざしてきたのは、それまでの常識に挑戦し、モーターサイクルの革新を担うことであった。その、言わば「挑戦」の系譜は、Ninjaに秘められた確かな遺伝子として、現在の一連のシリーズに脈々と受け継がれている。



1990 Ninja ZX-11

1052ccのハイパワーエンジンに市販車初のラムエアシステムを採用。優れた空力特性と相まって世界最速の称号をほしいままにしたフラッグシップモデル。



1996 Ninja ZX-7R

新設計のアルミ製ペリメーターフレームと、ショートストロークの高回転型エンジンで世界中のサーキットを席巻。輝かしい成績を残した1台。



2000 Ninja ZX-12R

量産車初となるアルミ製モノコックフレームを採用。強烈なパワーを誇るエンジンと、数々の新機構を搭載した画期的なマシン。



2004 Ninja ZX-10R

170kgを切る車量にハイパワーエンジンを搭載。驚異的なパワーウェイトレシオを誇り、世界中のサーキットで卓越した性能を発揮した。



2008 Ninja 250R

コンパクトな車体に水冷並列2気筒DOHC4バルブエンジンを搭載。先進国のエントリーから新興国のハイエンドモデルまで、世界中のライダーから愛された。



2011~ Ninja ZX-10R

最新の技術を搭載した最高峰スーパースポーツモデル。2013年にスーパーバイク世界選手権で総合優勝を達成、そのレベルの高さを証明した。



2012~ Ninja ZX-14R

強烈なパワーと扱いやすさを高次元にバランス。最先端のテクノロジーを満載した、文字通りカワサキの最新フラッグシップモデル。



2014~ Ninja 250SL

新設計のトレリスフレームに高回転型の水冷単気筒DOHC4バルブエンジンを搭載、スリムでコンパクトなボディの超軽量・最新スポーツモデル。